

(1)

現行の国際システムは民主的な国際機構と多角的な条約等を通し、台頭している中国に戦争を介さずに地位を高める経路と、経済的利益を与えている(Ikenberry, 2018)。その為、中国の現状への不満が戦争のコストを背負うほど高いとは考えにくく、米国とも概ね協力して国際秩序を維持してきた(Chan, 2004)。よって、中国が現体制を反故にしない、武力行使をしないという主張は信憑性を持ち、米国は予防戦争を好まないと考えられ、米中は戦争前夜ではない。

(2)

覇権移行時の予防戦争を回避するには、民主制や国際機構、国際法等による自己制約で挑戦国が将来権力を濫用しないという主張の信憑性が求められる。さらに、現下の戦争による期待利得が覇権移行後の期待利得を下回る状況であれば回避できる。つまり、現下の戦争利得を低減する要因である戦争コストが高いと回避できる。戦争コストをあげる原因は、核兵器の保有が抑制につながった米ソ間や経済依存の高い米中間から見出される。

---

〈参考文献〉

Chan, S. (2004). Exploring puzzles in power-transition theory: Implications for Sino-American Relations. *Security Studies*, 13(3), 103-141. DOI: 10.1080/09636410490914077

Ikenberry, J. G. (2018). Reflections on After Victory. *The British Journal of Politics and International Relations*, 21(1), 5-19. DOI: 10.1177/1369148118791402